

北星学園大学における授業支援体制の現状と課題 —授業サポートプロジェクトチームの取り組みを中心に—

Current Status and Issues of the Class Support System at Hokusei Gakuen University -Focusing on the Efforts of the Class Support Project Team-

金子 大輔^{*1}

Daisuke KANEKO^{*1}

^{*1}北星学園大学経済学部

^{*1}School of Economics, Hokusei Gakuen University

Email: kaneko@hokusei.ac.jp

あらまし：北星学園大学では2021年度の授業実施に際し、「授業サポートプロジェクトチーム」を発足させた。数名の教職員にくわえて、大学院生・学部生の有償ボランティアが教員や学生の支援にあたっている。本稿では本チームの組織や業務について述べ、これまでの活動から見えてきた課題について議論する。
キーワード：遠隔授業、非対面授業、対面授業、情報保障、教員支援、学生支援

1. はじめに

2020年度、北星学園大学（以下、本学と表記）では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い主として非対面で授業が実施された。なお、本学における非対面授業は、「遠隔授業（オンライン授業）」と「授業中に課すものに相当する課題研究等」が想定されているが、本稿では非対面授業を遠隔授業と同義として用いることとする。

本学では非対面授業実施に際し、各学科・部門で「オンライン授業担当教員」を選出し、遠隔授業サポートチームを発足させた。遠隔授業サポートチームは学生・教員からの相談を受け付けたほか、情報発信や各種ガイドの作成、全学向けFDの実施、zoom操作の個別支援などを行なった⁽¹⁾。2020年度の開始当初は混乱があったものの、こうした支援もあり、その後の非対面授業は比較的スムーズに実施されていたと考えられる。

これらの支援体制は年度末をもって終了することとなっており、その後の支援体制についてはとくに決まっていなかった。本学では2021年度は全面的に対面授業を実施することになっていたため、2020年度のような支援の必要性は低いと考えられていたことも背景にある。しかし、一部の科目は非対面授業で行われるほか、対面・非対面を問わず欠席者への情報保障が各担当教員に求められていた。対面授業では、体調不良の際には躊躇なく欠席することとされていた。また非対面授業では、接続トラブル等で授業に参加できない学生も出てくる。

このような状況から、筆者は教員への何らかの支援が必要になると考え、2021年3月上旬ごろより数名の教職員ボランティアの協力を得て支援の準備を進めていた。くわえて、大学に対して組織的な支援体制の構築の必要性を訴えていた。2021年3月末ごろにその必要性が認められ、「授業サポートプロジェクトチーム」が正式に発足することとなった。

2. 授業サポートプロジェクトチーム

2.1 組織

授業サポートプロジェクトチーム（以下、PJチームと表記）は、副学長の元に組織されたチームである。これまで筆者とともに支援の実現に向けて協力してきた教職員数名がボランティアとして活動している。PJチーム専用の Teams にはメンバーのほか、教務系、情報系、広報系などの職員を登録し、迅速に連絡を取れる体制を構築している。さらに、大学院生、学部生の有償ボランティア（北星スチューデントスタッフ、北星SS）を採用した。実際に支援を実施する際に、教職員のみでは人員が不足するため、SSが作業の補助にあたる。

2.2 業務

(1)欠席者への情報保障の支援

情報保障の方法は、「各科目の学習目標への到達度を考慮し、単位修得のための学習が可能となるように各科目担当者が判断」とされており、具体的な指示は出ていない。そこで筆者は、教員向けの情報提供として、情報保障の方法についてのFDを実施し、対面授業の録画・配信やハイフレックス型授業⁽²⁾などの方法を提案した。PJチームの支援もこれに沿ったものとなっている。具体的には、ビデオカメラで授業を録画し、授業の動画を作成し教員に送付する作業や、ハイフレックス型授業を実施する際に必要な機材（例えばスピーカマイクなど）の貸し出し等を行っている。

(2)教員・学生からの相談の受付

PJチームでは、教員や学生からの相談も受け付けている。教員からの相談は、ウェブ上にメールアドレスと質問フォームを用意して受け付けている。質問フォームは情報保障の支援依頼と同じフォームを

使っている。また、学生からの相談は、遠隔授業に関するものに限って受け付けている。平日の日中であれば LINE で即時フィードバックができるようにしたほか、質問フォームであれば終日相談を受け付けている。なお、これらの相談業務に SS は関わっておらず、教職員が対応している。

(3)情報発信

教員向けの情報発信として、4月初旬に集中的に FD を実施した。先述した情報保障の方法についての FD のほか、感染予防対策に関する FD やハイフレックス型授業の実施に役立つ機器の具体的な使い方についての FD を実施した。そのほか、教員向けの各種ガイドを整理・作成し、本学のウェブで公開している (https://cgw.hokusei.ac.jp/ipc/enkaku_kyoin/)。学生向けの情報発信としては、遠隔授業を受講するためのガイドを作成し、本学のウェブで公開している (<https://cgw.hokusei.ac.jp/ipc/enkaku/>)。これらのガイドは 2020 年度に遠隔授業サポートチームが作成したものを元に、SS が学生の視点からまとめなおしたものである。

(1)(2)に関連して、表 1 に 6 月 7 日までの PJ チームの支援回数(のべ授業コマ数)の月別集計を示す。授業開始当初の 4 月より撮影の支援は継続的に実施されていること、非対面授業が中心となった 5 月以降は機材の貸し出しが増加していることがわかる。相談の受け付けは、昨年度と比較するとほとんどないと言って良い。

3. PJ チームをめぐる課題

2 か月半にわたる PJ チームの活動の中で明らかになってきた課題について以下にまとめる。

3.1 PJ チームの稼働率

表 1 にも示した通り、PJ チームが実施した支援の回数は、開講されている授業数に比べて非常に少ない。多くの教員が自身で問題を解決できており、PJ チームの支援が必要ない状況であるとも考えられるが、支援が必要であるにもかかわらず、支援できていない場合は問題である。悲観的に見れば、そもそも情報保障の実施すらしていないために、結果として支援が不要となっているとも考えられる。このような場合には、学生に対する教育機会保障の観点からも、当該教員への何らかの働きかけが必要であろう。

3.2 組織内における役割

PJ チームの発足時に議論となったのは、PJ チームの業務の範囲である。とくに学生・教員から相談を受け付ける際、教務系や情報系などの事務部署が従来行ってきた相談業務とどのように区別するのかが課題となった。これに対し PJ チームは、適切な部署への誘導や案内といったハブ機能を持つことを目指し、各部署と Teams 上で連携をとることとした。現時点では全体の相談件数がそれほど多くなく、表 1 に示す通り PJ チームへの相談件数も少ない。なお、

これ以外にも相談はいくつかあり、それらは各部署が直接受け付けているが、全体として大きな混乱は見られない。

しかしこの先、授業形態が対面主体、または非対面主体と変化することで、問い合わせ先が偏ったり内容が変化したりする可能性もある。また、各部署で受け付けた相談などは、とくに全体で情報共有されているわけでもない。今後、情報の共有も含め、各部署とどの程度有機的に連携していくかが課題であろう。

3.3 人的リソース

2.1 で述べた通り、本 PJ チームは副学長のもとに組織されてはいるが、あくまで一部の教職員によるボランティアである。彼らは通常業務に加えて PJ チームの運営も行っており、筆者も含め担当者の負担はすでに大きい。3.1 で必要であるとした教員への働きかけや、3.2 で指摘した各部署との連携のための調整などは、実施するためにはさらに負担が必要となり、現状では実施が困難である。

そのため、PJ チームの業務を、大学の組織の中での正式な業務として位置づけ、その業務のための人的リソースを確保することが必要となる。2020 年度の遠隔授業サポートチームは、組織の中に位置付けられることなく終了してしまった。メンバーもほとんど残っておらず、そこで積み上げられた知見は一部を除き継承されなかった。こうした事態を回避するためにも、PJ チームの業務を大学の組織の中で位置付け、人を配置することが必要である。

3.4 授業の質に関する方針

PJ チームで支援をしたり、FD 等で情報発信を行ったりする際に必要なのは、授業や情報保障の質をどの程度に設定しておくかという、全学的な方針である。非常に質の高いものを想定するのであれば、PJ チームの人数を増やし手厚く支援することや、継続的・効果的な研修会を実施すること等が必要であろう。もちろんその質を検証し、改善していくことも必要である。

表 1 PJ チームの支援回数 (6/7 現在)

| 内容 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 合計 |
|-------------|-----|-----|-----|----|
| 授業動画撮影 | 18 | 19 | 9 | 46 |
| 機材貸出・操作補助 | 10 | 21 | 6 | 37 |
| 教員相談 | 9 | 2 | 0 | 11 |
| 学生相談 (LINE) | 6 | 7 | 0 | 13 |
| 学生相談 (メール) | 2 | 4 | 0 | 6 |

参考文献

- (1) 金子大輔, 永井暁行: "北星学園大学における非対面授業に対する支援態勢の構築と学生の意識変化". 教育システム情報学会誌, 37(4), 286-296 (2020)
- (2) 田口真奈: "授業のハイブリッド化とは何か: 概念整理とポストコロナにおける課題の検討". 京都大学高等教育研究, 26, 65-74 (2020)